～土の力でごみを減らそう！～

ミニ・キエーロ

使い方マニュアル





八女市環境課

目次

「ミニ・キエーロ」とは？　・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

使い始める前に、、、　・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

使　用　方　法　・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

よくあるQ&A　・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

「ミニ・キエーロ」とは？

「ミニ・キエーロ」とは土（微生物）の力で生ごみを分解する生ごみ処理器のことです。自然の力で分解するため、正しい使用方法で使っていただければ、においや虫が発生しにくいといった特徴があります。

また、小型の生ごみ処理器のため場所を選ばず、アパートやマンションのベランダなどで利用できることも特徴です。

◆「ミニ・キエーロ」の特徴

①微生物の力でごみを分解する（黒土の中に含まれているため、特別な菌を購入する必要はありません）。

②微生物がごみを分解するので、土はほとんど増えない（コンポストのように増えた土を処分する必要がない。）

③維持費はほとんどかからない（生ごみ以外に必要なものは水）。

その他、他の生ごみ処理器と比較して

・土中に埋めるので、虫やにおいが気にならない。

・微生物は油が好物なため、てんぷら油（汚れたものや臭い・粘度が強いもの）、カレー、シチューなどの残り汁なども投入が可能。

・微生物の活性にはある程度の水が必要なため、生ごみは水切りをせずに投入できる。

などの特徴があります。

使い始める前に、、、

使い始める前に「ミニ・キエーロ」の準備をしましょう！

配付物	①ミニ・キエーロ用容器 ②黒土１６Ｌ ③スコップ ④竹チップ

（1）置く場所を決める

日当たりがよく、風通しのいい場所に設置をしましょう。なるべく雨が当たらない場所が望ましいです。

※生ごみを分解する微生物は熱と酸素を必要とします。また、土の表面が乾くことでにおいや虫の発生を防ぎます。

（2）ミニ・キエーロの準備をする。

■黒土をミニ・キエーロ用容器に入れる

併せて、竹チップを入れて、黒土とよくかき混ぜる。



■スコップは生ごみを投入する際に土を掘ったり、生ごみを投入したあとかき混ぜる際にご利用ください。

使用方法

手順１：投入する生ごみを準備する



・日々発生する調理くずや食べ残し等、埋めるための生ごみを用意します。

可能な限り細かく切り刻んでください。

・１回あたりの投入する量は、２００～３００ｇ程度（握りこぶしくらいの容量）が目安です。

分類	特徴	例
分解が早いもの	・細かい（小さい）もの ・加熱調理をしたもの（残飯） ・水分が多く柔らかいもの ・カロリーが高いもの	・肉　・魚 ・ハム、ソーセージ ・油物　・ご飯　・野菜くず ・果物（皮は除く）・パン ・調理されたもの（天ぷら、煮物） ・カレー、シチュー ・マヨネーズ ・ヨーグルト　など
分解に時間がかかるもの	・固いもの ・もともと土にあるもの ・水分が少ないもの ・繊維質が強く厚みのあるもの ・非加熱の生もの	・果物の皮（みかん、バナナ） ・卵の殻　・生野菜の芯、皮 ・魚の骨　・軟骨 など
分解しないもの	・極めて硬く密度が高いもの ・貝殻などの無機質（石灰質） ・極端に乾燥した強い繊維質	・鳥や魚などの大きな骨 ・桃、梅などの種 ・貝殻　・玉ねぎの皮 ・トウモロコシの芯や毛 など

※ごみを分解するバクテリアは基本的に人間の食べるものが好きです。油分や塩分を分解するバクテリアもいます。

手順２：穴を掘り、生ごみを投入する

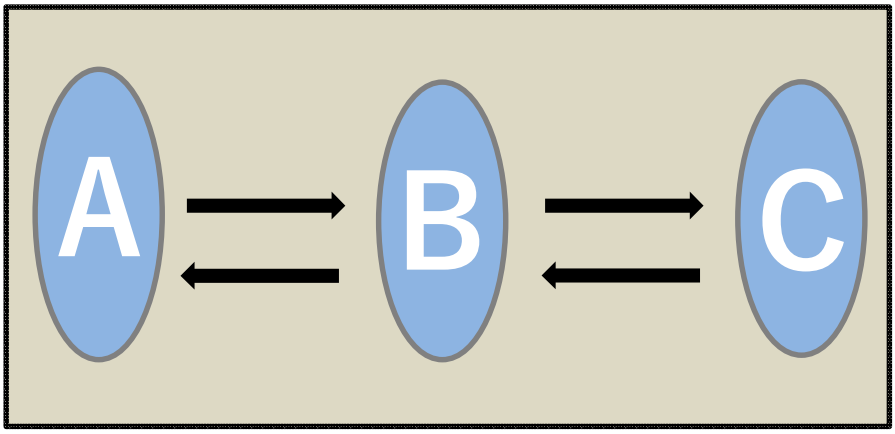


・生ごみは可能な限り小さくし、生ごみが頭を出さない程度の穴（約２０ｃｍ程度）を掘って投入します。

・この時土を握ると土団子ができるくらいの水分量があるとベストです。

ワンポイントアドバイス！

生ごみを埋める際は下の図のように、埋める場所を分けて交互に入れると効率よく分解することができます。



Ａに生ごみを入れた後、数日たってからＢに生ごみを入れ、その数日後にＣに生ごみを入れます。Ａの分解が進むと、再度Ａに生ごみを投入しＢ、Ｃと数日おきに投入することで、少ない容積で生ごみを効率的に処理できます。

分解には夏であれば１週間程度、冬は２～３週間程度かかります。分解が遅い場合は、再度掘り起こし、水を加え、ザクザクと土と混ぜ込む作業をしてください。

手順３：よくかき混ぜ、土で覆う



・ごみを投入したら、スコップで土と生ごみの見分けがつかなくなるまで空気を含ませながらよく混ぜます。

・かき混ぜた後は、混ぜた生ごみが表面に出ないように乾いた土を５～６ｃｍ程度かぶせます。

※表面に生ごみが見えていると、においや虫が発生する原因となります。

土をかぶせ終わったら作業終了です。

１週間～１０日程度放置してごみが消えるのを待ちましょう！

ワンポイントアドバイス！

・生ごみが消えたあと、再度生ごみを投入する前は、土をよくほぐして空気を含ませましょう！

・食用油は土の中のバクテリアを活発にしてくれます！

・分解しにくいものは小さく細かくしてみましょう！

・生ごみを投入した後は、乾いた土を表面に５ｃｍ程度かぶせましょう！

Q&A

Q、廃油や塩分を含む生ごみも入れて大丈夫ですか？
A、微生物は油が大好きです。粗熱をとって鍋から直接注いでも、他の生ごみに絡めて入れても分解が早まります。 　塩分は大量でなければ気にする必要はありません。
Q、生ごみがなかなか分解しません。
A、生ごみは細かく刻むと分解が早くなります。また、生ごみと適度な水分と空気を含ませながら、かき混ぜて埋めることが大切です。気温が低いと分解に時間がかかります。分解を促進するためには微生物の好物である廃食用油を混ぜると効果的です。分解中は土の温度が上昇しますので、温度を維持するために使い続けることも必要です。
Q、においがする時があります。
A、土の表面が湿ってる、生ごみが土の表面に出ていると、生ごみのにおいが漏れてしまいます。乾いた土で完全に蓋をしてください。 　また、水が多すぎて土がぬかるんでいる場合は、一度下側の土をひっくり返しすなどして土を乾かしてから使ってください。逆に、土が固まっていると空気が不足して分解ができません。適度な水分と空気をよく混ぜ込んでください。
Q、虫が湧きました。どうしてですか？
A、生ごみを埋めるときの穴が浅い・生ごみが表面に出てしまっていると虫が寄ってきて産卵します。生ごみを投入したあとは乾いた土で完全に蓋をしてください。